

コメント

「いじめ問題を考える」フォーラムのコーディネーターを担当して

教育学研究科

犬塚文雄

筆者は、本学で生徒指導関連の授業を担当している。特に、子どもたちのいのちを守る生徒指導のいま一番の課題は、申すまでもなくいじめ問題である。いじめは子どもたちの現在の安全を脅かすだけでなく、その後の彼らの成長・発達にも暗い影を落としかねない由々しき問題である。著名な精神科医の斉藤環氏は、最近の新聞取材で「いじめは、現代日本で最も多くのPTSD（心的外傷後ストレス障害）をもたらす温床」となっていることを指摘している。

そこで、今回、この深刻ないじめ問題に、どう向き合っていってよいかを考えるフォーラムを企画した。フォーラムのテーマは、「いじめ問題を考える—解決の方策を求めて—」である。

まず、このテーマに相応しい講師お二人の先生をお招きし、1時間ずつ講演をお願いした。前半は、国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター総括研究官の滝充先生である。滝先生は、日本を代表するいじめ問題の研究者で、昨年11月に行われた文科省主催のいじめシンポジウムでも基調提案をされ、その夜のNHKニュースで大きく取り上げられている。今回は、先生が中心となって行ってきたいじめの国際比較調査や国内の6年間にわたる追跡調査などのデータを踏まえて、「いじめ問題の原点を振り返る」という演題でお話頂いた。いじめ問題の本質的に変わらない面と、時代状況や社会情勢によって激しく変化している面をデータを踏まえて具体的に示して頂き、これからこの問題にどう向き合っていってよいかを考える上での沢山のヒントを提供して頂いた。

後半は、KDDI株式会社CSR・環境推進室担当部長の大久保輝夫氏をお願いした。大久保氏は、現在、企業の社会的責任(CSR)の担当部署の代表で、学校裏サイトやネットいじめ問題の対応で全国の学校を飛び回り、指導助言を行っている。今回は、「スマホ時代のネットいじめ」という、まさに今日的な演題でお話頂いた。

講演を通して、改めて、スマホの威力・怖さを痛感すると共に、これからのいじめ問題は学校だけでは対処しきれない、家庭や地域の関係者だけでなく企業担当者の協力も必要なことを再確認することができた。

次に、休憩を挟んでフロアからの質問を受けた後、いじめ問題に強い関心をお持ちのお二人の新進気鋭のコメンテーターの先生に、15分ずつ、講演を受けての率直なコメントを発して頂いた。お一人目が、文教大学湘南キャンパス情報学部准教授でキャリア教育がご専門の新井立夫先生、お二人目が、本学生活科教育講座准教授で、現在、ワークショップ型の授業研究に精力的に取り組んでいる金馬国晴先生である。その後、3～4人のグループに分かれて、講演とコメンテーターのコメントを受けて感じたこと気づいたことのグループシェアリングと全体シェアリングが行われた。最後に、もう一度、4人の先生からまとめのコメントを頂いた。

今回のフォーラムを通して、改めて、このいじめ問題については、「こうすれば間違いなし」という正解は描けないことを痛感した。まさに、このフォーラムの副題である「解決の方策を求めて」、何が問題でどうすればよいかを、みんなでスクラムを組んで考えていくことが、そして、仲間からパワーをもらって、それぞれの持ち場でやれるところからアクションを起こしていくこと、その積み上げが大事であることを再確認することができた。その際、滝先生のようないじめ問題の研究者から精度の高いデータを提供してもらったり、大久保部長のような企業担当者からの専門的な助言を受けることができると、より実効性の高いグループ提案が打ち出せるのではないだろうか、そんな思いを抱くことができた。

ところで、筆者が担当する生徒指導では、この解決の方策として、先述した「子どもたちのいのちを守る」方向と、もう一つ、「子どもたちのいのちを輝かせる」方向とに大別して捉えることができる。いじめ問題というと、どうしても前者の方向が中心となるが、後者の方向

も大事である。具体的には、子どもたち一人ひとりの個性や良さ・持ち味を引き出す、新井先生がご専門のキャリア教育、また、金馬先生がご専門の参加体験型・ワークショップ型授業の導入による授業改善などの取り組みを、直接的ないじめ問題の予防・対処法と併行して行っていくことが大事であることを、今回のフォーラムを通して実感することができた。

もう一つ、今回は、いじめ問題を取り上げたが、現在、子どもたちの学校生活において、彼らの安全を脅かす暴力行為としては、代表的なものが他に3つある。仲間内から向けられる暴力の代表であるいじめの他に、外部の不審者から向けられる暴力(この中には、最近、横浜でも報告されている登下校中の子どもたちに向けられ

る性的いたずらなども含まれる)、それから、体罰に代表される教職員から向けられる暴力、そして、自殺や自傷行為など、彼ら自身に向けられる暴力の併せて4つである。これらはどれも深刻で、ネットの影響など重なり合う点多々ある。(例えば、今回の講演でも取り上げられた、いじめ行為や自傷行為の生々しい動画が、ネット上に流出し、多くの子どもたちの目に触れるような事態が起きていることなど) こうした4つの暴力を含めて、学校・家庭・地域・企業等がスクラムを組んで、みんなでどうしたらよいかを考えていけたら、今回がその一歩になったのではないかと、コーディネーターとしては総括しておきたい。